市内で百歳のお祝い続々と
ご長寿おめでとうございます

青木しな子さん（組）
大正４年10月15日生まれ

若田萬壽さん（落合垂水）
大正４年10月８日生まれ

金平きぬゑさん（大庭）
大正４年10月18日生まれ

林君枝さん（曲り）
大正４年10月15日生まれ

ぐるっとまにわ 真庭
まちの話題

市内で４人の方が百歳を迎え、記念のお祝いをされました。足腰も元気で、週に３日グラウンドゴルフをされているという若田さん。花を育てることが好きで、穏やかな日々を過ごされている林さん。耳もよく聞こえ会話も楽しんでいる青木さん。巨人ファンで、球場にも足を運んでいたという金平さん。皆さんの共通点は、食生活に気を付けるということや、ストレスをためないということ。これからも元気でお過ごしください。

おかげさまで20周年
海の市・山の市2015真庭

各地の特産品を手にした来場者でにぎわう会場

高知のカツオのたたきを豪快にあぶる出店者

ジャージー牛と触れ合う子どもたち

20周年記念行事として大宮踊を披露する川上小学校の児童

９月27日、海の市・山の市２０１５真庭が三木ヶ原特設会場で開催され、県内外から約３万６千人が来場しました。20回目の開催となる今年は、近畿地方を含む９府県から過去最多の１１６団体が出店。各地の名物やひるぜん焼そばなどのご当地グルメに来場者は舌鼓を打っていました。また、ステージでは蒜山出身の泉彩世子さんの蒜山初凱旋ライブや、川上小学校の児童による大宮踊なども行われ、楽しい一日となりました。

10/4 ツーリングで地域資源の掘り起こし

国道313号沿線地域の歴史や文化、観光資源などを発信するロマンチックツーリング2015が開催されました。蒜山高原センターを発着点に、北房で折り返す約140㎞を走行し、参加者同士交流を深めました。

10/10 高校生がゆかりの肖像画を奉納

真庭高校の美術部と書道部の生徒が、学問の神様として知られる菅原道真公の肖像画を箸立天満宮に奉納しました。道真公に縁が深い同天満宮からの依頼を受け、今年４月から制作を進めていました。

10/11 牛の成長具合を競う

岡山県畜産共進会が草加部の全農岡山県本部総合家畜市場で開かれ、和牛と乳牛の部に計135頭が出品されました。審査員が発育状況や体の輪郭の鮮明さなどを見て、部門別に最も優れた牛を決めていきました。

10/14 勝山ゆかりの文豪に思いを馳せて

勝山郷土資料館前に建立された石碑「文豪谷崎潤一郎疎開の地」の除幕式が行われました。勝山観光協会30周年記念事業として行われたもので、館内では12月25日まで企画展も開催されています。

10/18 秋晴れの高原を駆け抜ける

第34回蒜山高原マラソン全国大会が、蒜山高原スポーツ公園をスタート・ゴールに開催されました。市内外から約2,500人の選手が参加し、爽やかな秋風に吹かれながら、高原を駆け抜けていました。

箸作りを体験する参加者

ものづくりを楽しもう 勝山町並み・体験クラフト市

勝山町並み・体験クラフト市が10月3日と4日の2日間、勝山町並み保存地区で開かれました。3回目の今回はガラス細工や木工、醤油搾り、染め物など30を超える体験プログラムが用意されました。訪れた人たちはそれぞれ好きな作家や職人に教わって、ものづくりに挑戦。クラフト市は作家や職人との交流も目的の一つで、訪れた人たちは作家との会話も楽しみながら、ものづくりの魅力を味わっていました。

展示された貴重な史料に見入る来場者

歴史語る118点を展示 木山寺・木山神社の宝物とその歴史展

木山寺・木山神社の宝物とその歴史展が10月9日から11日まで、木山寺で開かれました。かつて神仏習合の木山宮として信仰されていた2つの寺社に伝わる貴重な史料を、開創1200年を記念して公開。会場には、建物の由緒や建築年月日を記した棟札、戦国時代の古文書、奥宮拝所造営の際に発見された神像など118点が展示されました。訪れた人たちは、木山の歴史の奥深さを物語る史料を熱心に見て回りました。

可能性は真庭にある!
農山村再生を全国に向け発信

地域資源の活用などについて議論を交わしたパネルディスカッション

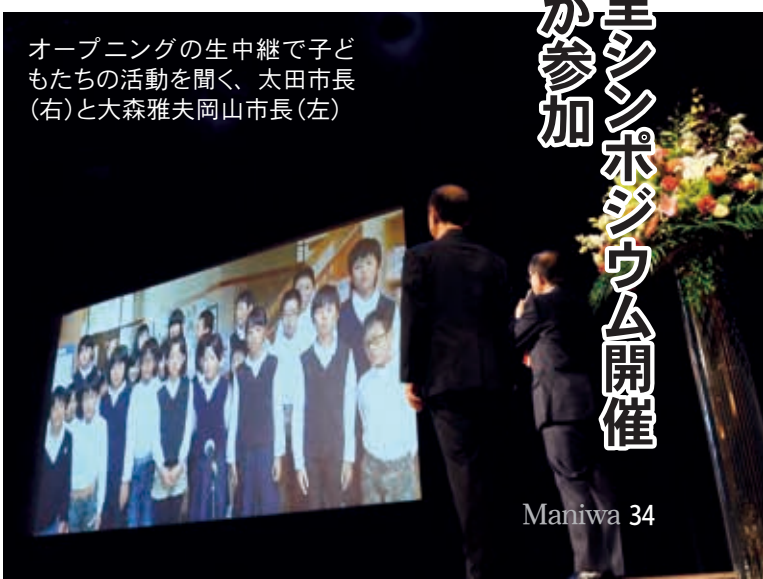
真庭市で全国水源の里シンポジウム開催
全国から約650人が参加

第9回全国水源の里シンポジウムが10月20日、勝山文化センターで開催されました。テーマを『清流が紡ぐ人と人～農山村と都市の共生を目指して～』とし、旭川水系上流にある中和小学校と下流域の岡山市にある岡山理科大学附属高校からの生中継映像で開幕しました。続いて、明治大学農学部の小田切徳美教授が「見えてきた！農山村再生」と題して講演。引き続き小田切教授がコーディネーターを務めたパネルディスカッションでは、人やものといった地域資源の活用に取り組んでいるパネリストを迎え、その活動を紹介しながら農山村再生や都市との交流について意見を交わしました。シンポジウムには全国から約650人が参加し、熱心に耳を傾けていました。

また、シンポジウム終了後に開かれた交流会では、真庭で採れた食材を使ったメニューや地酒を用意し、参加者をもてなしました。会場では、配膳ボーイズがテーマ曲「あなたによそいたくて」を、湯原温泉旅館の女将さん会・シャクナゲ会がハンドベル演奏を披露。大いに盛り上がった会場では、参加者同士が交流を深めました。

基調講演

講師の小田切教授は、都市との交流から生まれる新たな価値の発見や、人による集落支援の効果などを強調。また、真庭市の事例などを挙げ、「大小の里山資本主義が補完し合うことが鍵」「農山村再生は見えている」などと述べられました。



オープニングの生中継で子どもたちの活動を聞く、太田市長（右）と大森雅夫岡山市長（左）

オプショナルツアー

10月21日にはオプショナルツアーを実施。参加者は全4コースに分かれ、真庭のさまざまな地域資源活用の取り組みを体感しました。

生ごみから作った液肥で栽培する野菜の圃場を見学

アシタカが商品化しているクロモジの葉っぱをかじる参加者

全国水源の里連絡協議会

過疎や高齢化が進む農山村の活性化を主な目的に、平成19年に立ち上がった協議会。現在約170の自治体が参加しており、真庭市も当初から参画しています。シンポジウムは毎年開催され、水源の里の生き方の誇りや活性化への提案などを全国に発信しています。今回、岡山県では初開催。

大会アピールを発表する
竹原茂三真庭市議会議長

会場受付で全国からのお客さまをお出迎えする
真庭市キャラクターのまにぞう

フォトコンテストでは真庭市在住の
小谷佳嗣さんがグランプリを受賞

真庭ならではの料理が並んだ交流会では
生産者自らがおもてなし

講演に聞き入る参加者

真庭バイオマス発電㈱
中島浩一郎 代表取締役

(一社)アシタカ
赤木直人 代表理事

NPO法人 タブラ ラサ
河上直美 理事長

中島代表取締役はバイオマス発電事業、赤木代表理事は中和地区で取り組む薪の生産などを紹介し、それぞれの立場で里山資源の活用を発表。また、河上理事長は岡山市の西川を中心に展開しているにぎわい創出について話をされました。これらの活動に行政の視点を加えながら、都市との交流、農山村の再生について意見を交換。コーディネーターの小田切教授が「このシンポジウムで農山村再生の可能性は見えた」と締めくくりました。

太田　昇 真庭市長

パネルディスカッション

真庭の色づく秋

秋も深まり、市内の各地で紅葉が見ごろを迎えます。この秋、紅葉めぐりに出かけてみませんか。少しだけですが紅葉スポットを紹介します。

美甘渓谷

福田神社

木山神社

徳山神社

神代の四季桜

神庭の滝

まにわかスキッ!! 編集後記

吹き出す汗、一向に減らない泥…、まさに悪戦苦闘。9月27日に行われたほたる公園の池掃除の様子を撮ったのが29ページの写真です。ほぼ10年ぶりの掃除ということで、相当な量の泥でした。実は私、10年前に掃除した者のうちの一人。当時を知る人に「今日は池入らんの？」と声を掛けられました。すいません、入れません。さすがにカメラを持っては…。江崎

百歳のお祝いに同行して、若田萬壽さんのお宅にお邪魔しました。そこで度肝を抜かれたことが。急な階段をいとも簡単に登っていく若田さん。百歳とは思えない足取りに、思わず見入ってしまいました。今でも週に3日はグラウンドゴルフをされているということにもビックリ。健康で百歳を迎えられるということは、本当にすごいと思います。横山

真庭市制施行10周年記念

広報真庭 11月号 平成27年11月1日発行（通巻127号）
■発行 真庭市役所 ■編集 総合政策部秘書広報課
■秘書広報課 Eメール hisho@city.maniwa.lg.jp
〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2 TEL7-42-1163
ホームページ http://www.city.maniwa.lg.jp

VEGETABLE OIL INK この広報紙は、環境にやさしい植物油インキを使用しています。
この印刷の一部には、水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。
この広報紙は、再生紙を使用しています。